



歴史的 タイムピース

パテック フィリップの記念タイムピースはなぜこれほど高い収集価値を持つのだろうか。時計エキスパートで愛好家のジョン・リアドンがその秘密のすべてを解説する。

文 ニック・フォークス 翻訳 小金井良夫

「限定モデル」とは誤解を招く言葉である。これらのタイムピースの呼び名としては商業主義的に過ぎる。むしろマニュファクチュールパテックフィリップの歴史における重要なマイルストーンを記念して製作された、「記念タイムピース」というのがより正確であろう。パテックフィリップにおいては、一部の「限定モデル」の方が現行コレクションの一部のモデルよりも製作個数が多い、というパラドックスが見られることがある。」「限定」という用語自体が意味をなさない。それはさておき、パテックフィリップ記念タイムピースの世界は、そのような論議を超越してしまうほど、魅力に満ちたものである。

この分野といえば、ジョン・リアドン以上の権威はまずいない。『パテックフィリップ・イン・アメリカ』の著者であり、長年パテックフィリップで働いた後、サザビーズの時計部門に入り、今年後半にはクリスティーズに移籍する予定のジョン・リアドンは、パテックフィリップ・インサイダー、著者・研究者、およびタイムピース・コレクターとの直接のコンタクト、という3つの視点を持つユニークな立場にある。彼によれば、すべては19世紀、伝説的な時計メーカーと、伝説的な販売店の出会いから始まった。

「パテックフィリップ創業者アントワーヌ・ノルベール・ド・パテックとチャールズ・ティファニーは1851年、ニューヨークで出会いました。ティファニーの発注方法は、年間合計個数を定めるといって、当時としてはアグレッシブなものでした。これが基礎となり、両社の関係は今日まで発展を続けているのです」とジョン・リアドンは説明し、ティファニーとのパートナーシップ150周年を記念して製作された5150モデルを引き合いに出した。「これは両社が共に歩んできた歴史の証です。ケースバックには古き良きニューヨーク風景と当時のティファニー本店、それに1851、2001という年代が刻まれています。馬や馬車も描かれています。シルクハットにフロックコートの顧客が店に入り、両社の銘入りの豪華な懐中時計を選ぶ様子を想像してしまいます。今日なら、タイムピースを購入するためリムジンから降り立ち、ティファニーのパテックフィリップ・ブティックに入る紳士というところでしょう。」

女流作家アイディス・ウォートンが好んで描いた当時のニューヨークから話題を転じ、リアドンは語る。「パテックフィリップの時計に社名を入れていた販売店他にもありました。しかしこれらを限定モデルないし記念時計と呼ぶのはふさわしくない、と彼は言う。当時パテックフィリップは米国に進出して間もなく、地元の販売店名を入れることは、アメリカ市場で地位を確立するのに役立つのである。北米から南米に話を移そう。ゴンドロー&ラブリオ社との関係は有名である。「リオデジャネイロのゴンドロー&ラブリオ社は世界有数の時計店であり、パテックフィリップの重要な代理店でした（本誌Vol. 1 第12号「パテックフィリップ・クラブ」参照）。このパートナーシップはたいへんな成功を収め、同社は販売促進のため独創的な企画を考えました。そのひとつがパテックフィリップ・クラブだったのです。それは知られる限り最初のコレクターズ・コミュニティというべきものでした。会員数は百数十人を超え、複雑なルールの抽選会の形式をとり、毎年1個のパテックフィリップを購入する決まりでした。

賞品のパテックフィリップには両社の社名が記載されていた。このクラブのメンバーたちの製品に対する要望がジュネーブのパテックフィリップ本社に寄せられました。例えば文字盤の特有なデザイン、ゴールドの時回り輪列、ムスターシユ型レバー脱進機などです。選ばれた顧客による特別な技術的要望に比べると、今日まで脈々と受け継がれている。そのひとつの例が、2005年に発表され、シリコン製ガンギ車を初めて搭載した、100個限定製作の年次カレンダー5250モデルである。「これがその真の意味での限定モデルです。ごくわずかしが製作されず、ごく親しい顧客のみに販売され、これらの顧客にシリコン製構成部品の機能に関するフィードバックを求めました。驚異的な技術的壮挙であるのはもちろんですが、サファイヤクリスタル・バックに付いたループを通して、シリコン製ガンギ車をよりドラマチックに鑑賞できるのです。」

このパイオニア・ワークへの報奨として、パテックフィリップ・アドバンストリサーチ部門の開発によるシリコン製構成部品を搭載した年次カレンダー5350モデル（2006年）、年次カレンダー5450モデル（2008年）、永久カレンダー5550モデル（2011年）は、いずれも「パテックフィリップ・アドバンストリサーチ」の名を冠して呼ばれることとなった。この部門の責任者ジャン・ピエール・ミュジューは、パテックフィリップの最も著名な記念タイムピースの生みの親でもある。キャリア89は、旧来の競争に終止符を打ち、議論の余地なく世界で最も複雑な携帯時計となったのである。

パテックフィリップ名誉会長フィリップ・スターン氏は語る。「パテックフィリップがその歴史を通じて得意としてきた超複雑なタイムピースを創作する能力、技術、ノウハウ、人材を、今日も当社が持っていることを立証したのです」。1989年、創業150周年の盛り上がりの中、キャリア89が最大のスターであったことはもちろんだが、より広く時計の世界でコレク

1997年、パテック フィリップ
新本社工場落成を
記念して製作された
バゴダ 5500モデル。
イエローゴールド仕様1100個、
ローズゴールド仕様500個、
ホワイトゴールド仕様250個、

ブラチナ仕様150個の限定製作。
同じく婦人用バゴダ
4900モデルも製作された。
イエローゴールド仕様500個、
ローズゴールド仕様150個、
ホワイトゴールド仕様100個の
限定製作。



ダ5500モデルは、愛好家、コレクターへの報奨となつた。きわめて限られた製造個数が完成すると同時に、すべての型は破棄されたのである。ミニット・リピーター5029モデルも同時に発表された。イエロー、ローズゴールド、ブラチナ仕様各10個、合計30個の限定製作であった。リアドンはこのモデルへの傾倒をこう語る。「オフィサータイプで、ヒンジ付カバーには「COMMEMORATION 1997」と刻印されています。カバーを開くとパテックフィリップの最も美しいムーブメントのひとつが目の前に現れます。偏心マイクロローターの採用により音を響かせる空間が広がっています。オフィサーウォッチは基本的に懐中時計の構造を踏襲しており、サファイヤクリスタル・バックとカバーの間の空間がさらに豊かな残響を生み出すのです」。もちろん、これらの記念タイムピースを通して語られるパテックフィリップの歴史に参画したいと望むすべての

人々が、ミニット・リピーターを入手できるわけではない。この意味から、2006年、パテックフィリップ・ジュネーブ本店の改装オープンを記念して製作されたステンレススチール仕様カラトラバ5565モデルは、同社が製作した最もシックでしかもシンプルなタイムピースのひとつといえる。ゴールド・ブラック・ニッケル仕上げの植字アラビア数字とボタン・インデックスを交互に配したシルバートーンの文字盤は、控え目なエレガンスの頂点ともいえる。ケースバックには、ロイヤル通りの著名なパテックフィリップ・ジュネーブ本店が彫刻されている。また同時に発表された100個限定製作のブラチナ仕様5105モデルには、ブラン・レ・ワット新本社工場移転の際、木製ケースに収められて100個発見された1959年製作のキャリバー990ムーブメントが搭載されている。5105モデルの流麗なケースはアール・デコ様式の歴史

「40ページ」
ジャンピングアワー3969モデル。
パテックフィリップ創業
150周年を記念して1989年に
製作された。500個限定製作
された。ローズゴールド仕様
450個、ブラチナ仕様50個。

「当ページ」
(下) 同年製作された
オフィサー 3960モデル。
2200個限定製作された。
イエローゴールド仕様2000個、
ホワイトゴールド仕様150個、
ブラチナ仕様50個。



ターの間にコンプリケーションへの情熱を再燃させたという意味において、その役割は巨大なものがあつた。このスターがあまりにも著名となったため、創業150周年を記念する他の特筆すべき記念タイムピースを見逃しがちである。「目的は、コレクターの要望にこたえるタイムピースを創作することでした」とフィリップ・スター氏は回想する。デザインの観点からは、独自性あふれるラグ、ターバン型リュウズ、エンゲレレーピングを施した中蓋を保護するヒンジ付カバーを備えた、オフィサー3960モデルであろう。コレクターの関心をそそる今ひとつは、1920年代へのオマージュであるトノー型ケースのコンプリケーテッド・ウォッチ、ジャンピングアワー3969モデルである。1989年はまた、パテックフィリップが3979モデルと3974モデルにより、ミニット・リピーターに回帰した年としても記念すべきである。

時計製作のルネッサンスに関してリアドンは、フィリップ・スターン氏の控えめな目さとは対照的に熱っぽくこう語る。「1980年代、パテックフィリップはすべての有能な職人たちを一堂に集めた一種のヴェルサイユ宮殿だったので。1970年代から1980年代初め、クォーツ革命により伝統的時計産業は危機的状況にありました。先見の明のあるスターン氏は、プレスレットから文字盤、そしてもちろんムーブメントに至る当時最高のクラフトマンたちを自社で抱えました。その成果としての創業150周年記念タイムピースは、伝統的時計製作技術の勝利を宣言した記念碑的作品となったのです」。これらのタイムピースが、パテックフィリップ史における他の重要な節目を祝う記念タイムピースのモデルともなったことはいうまでもない。例えば1997年、パテックフィリップ新本社工場落成を記念して創作されたバゴ



2006年
パテック フィリップ・ジュネーブ本店の改装オープンを記念して製作されたステンレススチール仕様カラトラバ5565モデル。300個限定製作。



2005年
シリコン製ガングリ車を初めて搭載した年次カレンダー5250モデル「パテック フィリップ・アドバンストリサーチ」。ホワイトゴールド仕様100個限定製作。



2003年
ヴェンベとのパートナーシップ125周年を記念して製作された5125 W125モデル。イエロー、ホワイト、ローズゴールド仕様各125個、ブラチナ仕様100個限定製作。



2001年
ティファニーとのパートナーシップ150周年を記念して製作された年次カレンダー5150 T150モデル。イエロー、ホワイト、ローズゴールド仕様各150個限定製作。



2000年
新しいミレニアムを記念して製作されたミレニアム5032モデル。パテック フィリップ・ジュネーブ本店で販売。100個限定製作。



2000年
新しいミレニアム(千年紀)を記念して製作されたスターキャリバー2000。イエロー、ホワイト、ローズゴールド、ブラチナ仕様各1個のセットを5セット限定製作。



1997年
パテック フィリップ新本社工場落成を記念して製作されたバゴダ5500モデル。イエローゴールド仕様1100個、ローズゴールド仕様500個、ホワイトゴールド仕様250個、ブラチナ仕様150個の限定製作。



1997年
パテック フィリップ新本社工場落成記念婦人用バゴダ4900モデル。イエローゴールド仕様500個、ローズゴールド仕様150個、ホワイトゴールド仕様100個の限定製作。



1989年
パテック フィリップ創業150周年を記念して製作されたキャリバー89。イエロー、ホワイト、ローズゴールド、ブラチナ仕様各1個の4個限定製作。



1989年
パテック フィリップ創業150周年記念オフィサー3960モデル。2200個限定製作。イエローゴールド仕様2000個、ホワイトゴールド仕様150個、ブラチナ仕様50個。



1985年
イエローゴールド仕様永久カレンダー、ムーンフェイズ搭載3940モデル。ペイヤー(チューリッヒ) 創業225周年記念。25個限定製作。



1979年
イエローゴールド仕様のウィリアム・テル898モデル。スイス連邦射撃祭50周年記念。紳士用50個、婦人用50個限定製作。

ニューテクノロジー、パートナーシップ、新本社工場落成、ジュネーブ本店改装など、パテック フィリップの歴史における重要な出来事を記念して製作された記念タイムピース。



(下) パテック フィリップ
新本社工場落成を記念して
30個のみ製作されたミニット・
リピーター 5029モデル。
イエロー、ローズゴールド、
プラチナ仕様各10個限定製作。
[次ページ]

新しいミレニアムを
記念して製作された
十日巻5100モデル。
イエローゴールド仕様1500個、
ローズゴールド仕様750個、
ホワイトゴールド仕様450個、
プラチナ仕様300個の限定製作。



的モデルにインスピレーションを得ており、ムーブメントは、
新本社工場移転の際、偶然に見えられた1959年製作の
キャリバーである。さらに歴史上名高いパテック フィリッ
プ・ジュネーブ本店の改装オープンを記念して製作された
のである。これらの重層的な意味合いと、パテック フィ
リップの重要な歴史的出来事を一身に体現しているとい
う点において、最も特筆すべき記念タイムピースのひとつ
といえるだろう。

パテック フィリップは、時を超越しつつ、真の歴史を絶
え間なく創り続ける。その要素所にブックマークのよう
に存在するのが記念タイムピースである。それが愛好家、
コレクターを惹きつけるのだ、とリアドンは言う。「多く
のコレクターは、入手し難いものを追い求めます。そし
て一部のミニット・リピーターや記念タイムピースは、誰
も目にすることができない、永遠の憧れの対象なのです」。

一旦入手したコレクターはこれを手放さない、というの
がひとつの理由である。「これらの記念タイムピースを入
手した時の感動はあまりにも大きいので、他のモデル以
上に当初のオーナーまたはその家族が持ち続ける確率が
高いのです。多くのモデルはオークションに出てきません。
購入され、長年にわたって大事に保存され、または着用
される。私の知り合いのコレクターに、パテック フィリッ
プのすべての記念タイムピースと限定製作モデルを集める
ことを人生の目標にしている人がいますが、多分実現し
ないでしょう。誰ひとり見たことのない幻のモデルとい
うものが存在するからです」。

まだ製作されていない、未来の記念タイムピースも、こ
の見果てぬ夢のタイムピースに含まれるであろう。 ✦
オーナー専用サイトの「パテック フィリップ マガジン・エクストラ」
(patek.com/owners)にて、特別関連コンテンツをご覧ください。



2012年

ニューヨーク・ティファニー・
フラッグシップストアのパ
テック フィリップ・ブティック
開店5周年を記念して製作
された年次カレンダー 5396
モデル。ホワイトゴールド仕
様100個限定製作。



2012年

ニューヨーク・ティファニー・
フラッグシップストアのパ
テック フィリップ・ブティック
開店5周年を記念して製
作された婦人用コンドーロ
4987モデル。ホワイトゴ
ールド仕様50個限定製作。



2011年

Silinvar®によるOscillomax®
を完全搭載した永久カレン
ダー 5550モデル「パテック
フィリップ・アドバンストリ
サーチ」。プラチナ仕様300
個限定製作。



2010年

スイス時計店ベイヤーとの
パートナーシップ250周年を
記念して製作された5170モ
デル。イエローゴールド仕様
50個のみの限定製作。



2008年

パテック フィリップ・アドバ
ンストリサーチ部門が開発
したPulsomax®脱進機を
初めて搭載した年次カレン
ダー 5450モデル。プラチナ
仕様300個限定製作。



2006年

パテック フィリップ・アドバ
ンストリサーチ部門が開発
したSpiromax®氦ゼンマイ
を初めて搭載した年次カレン
ダー 5350モデル。ローズ
ゴールド仕様300個限定製作。



2006年

パテック フィリップ・ジュ
ネーブ本店の改装オープン
を記念して製作されたプラ
チナ仕様5105モデル。100
個限定製作。